

# 音楽科 学習指導案

日時 平成28年5月17日(火) 2校時  
児童 2年生  
授業者  
場所

## 1 題材名 「いい音 見つけて」

## 2 題材について

### (1) 題材観

本題材は、児童が楽器の音色、リズムの繰り返しや変化に気付き、それを基に情景を思い浮かべ、楽曲のよさや面白さを感じ取って聴いたり、楽曲のイメージに合う楽器を選択して表現を工夫したりすることが、主なねらいである。

鑑賞曲の「かっこう」(スイス/イタリア民謡)は、かっこうとどの動物が会話しているのかを想像しながら聴くことで、楽器の音色や問いと答え等を根拠として楽曲の気分を感じ取ることができる教材である。同じく鑑賞曲「鍛冶屋のポルカ」(シュトラウス)でも、楽器の音色や問いと答えを楽しく聴くことができる。その後の表現活動として「森のたんけんたい」(東一陽作詞/野木雄大作曲)で、歌に合わせて楽器を加えて歌ったり演奏したりする。歌詞のイメージと楽器の音色や音の出し方を結び付けて表現を工夫することができる教材となっている。

### (2) 児童観

# 省略

## 3 題材目標

楽器の音色や問いと答えを聴き取り、その面白さを感じ取りながら、音楽の表している様子を思い浮かべて聴いたり、歌詞のイメージに合う楽器の音色を選択し、表現を工夫して演奏したりする。

## 4 評価規準及び道徳的学び

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力	道徳的学び
楽曲の気分を感じ取って聴いたり、情景を思い浮かべながら表現したりする学習に、進んで取り組みようとしている。	歌詞のイメージと楽器の音色を結び付けて表現を工夫し、どのように表すかについて思いをもっている。	歌詞のイメージに合った楽器を選び、音の出し方に気をつけて楽器を演奏している。	場面を想像しながら楽曲の気分を特徴付ける楽器の音色の違いを聴き取り、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴いている。	3- (3) 「敬虔」 自分にとって心地よい音を探し演奏する。

## 5 題材の指導計画

時	主な学習活動	教師の働きかけ	評価
1 本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「かっこう」を場面を想像しながら聴き、楽器の音色や問いと答えを根拠に、楽曲の気分を感じ取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□かっこうの鳴き声を聴かせ、楽曲の中から探すよう伝え、聴く対象を明確にする。</li> <li>□聴き取ることができる問いと答えからどんな動物と会話をしているのか想像させる。</li> <li>□児童が感じ取ったイメージに対して、「なぜそう思ったのか」を問い、想像したことが、楽曲のどの部分と関係しているのか、楽曲を形づくる諸要素と結び付ける。</li> </ul>	関鑑
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「かっこう」で感じ取ったことを基に、「鍛冶屋のポルカ」を、金属を打つ音色やかかけ合いに着目し、場面を想像しながら聴く。</li> <li>・「森のたんけんたい」の楽曲の気分を感じ取り、歌詞唱する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□楽器の音色によって情景を表している「鍛冶屋のポルカ」を、金属を打つ音に着目させて聴かせる。</li> <li>□「鍛冶屋のポルカ」から想像したことや感じ取ったことなどを伝え合い、2曲を通しての楽曲の楽しさやよさを改めて実感させる。</li> </ul>	鑑
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「森のたんけんたい」の歌詞のイメージに合った楽器探しや最後の小節のリズムづくりをする。</li> <li>・個で見付けた音を持ち寄り、グループで合わせて演奏する。</li> <li>・自分の演奏を客観的に聴き、より良い演奏になるよう工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□前時までに聴き取ったことや、実感した音楽の楽しさについて想起させる。</li> <li>□どの楽器、どのような音色、どのような演奏の仕方になると「コンコン」や「ポンポン」などの鳴き声（歌詞）のイメージに合うのか問い、児童の工夫を促す。</li> <li>□グループごとの演奏を録音して聴かせ、「もっとこうしてみようかな」というより良い演奏にする姿を引き出す。</li> </ul>	関創
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「森のたんけんたい」の歌詞のイメージに合った楽器を選んだり、演奏の仕方を工夫したりして、グループで演奏を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「どんな音がびったりだった？」などと、友達の演奏の工夫を探しながら聴くよう促す。</li> </ul>	技

## 6 小中連携の視点

	小学校2学年	中学校2学年
目指す 子供の姿	<p>楽曲を特徴づける音に着目して聴こうとし、楽曲の気分や、それを特徴づける要素のかかわり合いを聴き深めていき、楽曲や演奏の楽しさを実感し、楽曲全体を味わって聴く姿。</p>	<p>鑑賞活動に積極的にかかわり、これまでの既習事項や自分の感性を生かして音楽がどのように構成されており、それによってどんな効果があるのかを聴き深めようとする姿。</p> <p>→単元を通して、音楽は作曲家の思いとともに知的に作り上げられていることを理解するとともに、他の曲に関わっても公正に興味を持つようとする姿。</p>
手立ての 視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聴取対象を明確にする。</li> <li>○音楽から場面を想像しながら聴き深めていく活動の設定と、聴き取ったことや感じたことと音楽的要素を結び付ける教師のかかわり。</li> <li>・「どうしてそう思ったの？」と問うたり、「問いと答えがあったから、会話をしていると思ったんだね。」と共通事項に置き換えたりする等。</li> <li>○同じ要素が含まれた他の楽曲を聴く活動において、想像したこと、感じ取ったこと、<u>楽曲や演奏の楽しさを伝え合う場を設定する。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会生活に関わる題材をもちい、<u>聴く力を問う課題を設定</u></li> <li>・比較的聴いたことがある楽曲を活用すること。</li> <li>・モチーフを追って聴く</li> <li>・構成の効果を聴く</li> <li>・比較して聴く</li> <li>○課題解決に向けて自問しながら、<u>批判的に音楽を見つめる活動</u></li> <li>・課題を自分事として捉え、学習したことの中で課題解決および振り返りの中等において現時点でのわからないこと・質問を考えさせる。</li> </ul>

7 研究とのかかわり（第1, 2時にかかわる部分について）

<p>音楽鑑賞の序盤（1h）</p>	<p><b>I</b> 状況的興味の喚起・維持を促すために</p> <p>《聴取対象の明確化》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かっこの鳴き声を聴かせ、音を認識させる。</li> <li>・かっこの鳴き声が聞こえたら手を挙げることを伝え、「かっこ」の鳴き声に焦点を当てて聴かせる。</li> <li>・かっこの鳴き声とトランペットのかけ合い（問いと答え）に焦点を当てて聴かせる。</li> </ul> <p>目指す子供の姿① わかりやすい特徴に気を付けながら、聴こうとする子供</p>
<p>音楽鑑賞の中盤（1h）</p>	<p><b>II</b> 個人的興味の出現を促すために</p> <p>《音楽から場面を想像しながら聴き深めていく活動の設定》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問いと答え形式から、「どんな動物とかっこがお話しているのか想像して聞こう」という課題を設定し、楽曲を動物へと擬人化させながら聴かせていく</li> </ul> <p><b>II—（1）</b> 内的活動の高まりを促すための工夫</p> <p>《聴き取ったことや感じたことと要素を結び付ける教師のかかわり》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森の絵と動物の絵を用意し、選んだり動かしたりする活動をすることで、楽曲から想像したことを表現できるようにする。</li> <li>・児童の表現を全体で取り上げ、なぜその動物にしたのか、なぜ動物を変えたのか、なぜそのセリフにしたのか等を全体で交流し、イメージを共有したり、音楽の諸要素のどこに関連しているのかについて自覚させたりする。</li> <li>・擬人化してきた各場面を板書に表し、1つのストーリーとして俯瞰して見られるようにする。</li> <li>・個別に森の絵と動物の絵を渡して貼らせることで、「かっこ」から想像した自分のストーリーを表現できたことを実感させる。</li> </ul> <p>目指す子供の姿② 楽曲を形づくっている要素のかかわり合いや楽曲の気分を感じ取りながら聴き深める子供</p>
<p>音楽鑑賞の終盤（1h）</p>	<p><b>III</b> 発達した個人的興味の出現を促すために</p> <p>《同じ要素が含まれた、他の楽曲を聴く活動の設定》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「鍛冶屋のポルカ」を金属を叩く音に着目して聴いたり、その他の楽器の音や曲想に視点を変えたりしながら、鍛冶屋が働いている様子を想像して聴く。</li> </ul> <p><b>III—（1）</b> 内的活動の高まりを促すための工夫</p> <p>《想像したこと、感じ取ったこと、楽曲や演奏の楽しさを伝え合う場の設定》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「鍛冶屋のポルカ」に登場する金属を叩く音が速くなったり消えたり、曲想が変わっていったりする中で「鍛冶屋はどのように働いているかな？」と問い、感じたことや想像したことを交流させ、「かっこ」同様、楽器の音色等によって情景を表すことができる面白さやよさを実感させるようにする。</li> </ul> <p>目指す子供の姿③ 楽曲や演奏のよさを改めて実感し、楽曲全体を味わって聴く子供</p>

## 8 本時について（1／4時間目）

### （1）研究とのかかわり

本時においては、主に研究の視点ⅠとⅡ、Ⅱ—（1）にかかわって、手立てを講じていく。  
 まず、手立てⅠとして、聴取対象を明確にするために、かっこの鳴き声を聴かせ、認識させる。その後かっこの鳴き声が聞こえたら手を挙げることを伝え「かっこ」を聴かせる。さらに、トランペットのメロディまで再度聴かせ、トランペットの音と、かっこの鳴き声のかけ合いに気付かせる。このように、聴取対象を焦点化させることにより、その音に集中してじっくりと耳を傾けて聴こうとする児童の姿を引き出していく。

かっこの音とかけ合いを聴き取れた段階で、手立てⅡとして、問いと答え形式になっていることから、「かっこは、どんな動物とお話しているのか想像して聴こう」という課題を設定し、楽曲から聞こえてくる音を動物へと擬人化させながら聴かせていく。その際、手立てⅡ—（1）として、児童（ペア）の手元に、森の風景のシートと、何匹かの動物の絵を用意しておく。児童は、音から想像する動物を選び、シート上で動かしたり会話の内容を想像したりしながら、聴き取ったことを表現（可視化）していく。楽器や場面が変わる度に、児童の表現を全体で取り上げ、なぜその動物にしたのか、なぜ動物を変えたのか、なぜそのセリフにしたのか等を全体で交流し、イメージを共有したり、音楽の諸要素のどこと関連しているのかについて自覚させたりする。楽曲は、その後、ホルン、バストロンボーンとだんだんと音が低くなっていくため、児童は動物を変えながら、聴き取った音を根拠に、森の様子を想像していくことになる。さらに、擬人化してきた各場面を板書に表し、全体を俯瞰して見られるようにしておくことで、徐々に1つのストーリーとして整理できるようにする。このように、場面を想像したり、それをストーリーにしたりしていく活動の中で、楽曲を何度も聴き深め、交流していくことで、「楽器の音や、かけ合いを聴くことで、どんなお話になるのか想像することができる」という、楽曲の持つ楽しさを感じられるようにする。本時の最後には、ペアやグループ、全体で交流してきたことを基に、個でシートに表すようにし、児童が想像してきたことが、1つの物語としてストーリー化され、音から物語を作ることができたことを実感させる。

### （2）本時の目標

かっこの鳴き声やかけ合いに焦点を当てて、進んで聴こうとし、場面を想像しながら楽曲を形づくっている要素のかかわり合いを聴く。

### （3）本時の展開

○児童の主な学習活動	□教師の働きかけ・留意点 肯自己肯定感	評価 個に応じた指導 (△発展的▲補充的)
<p>○かっこの鳴き声を知り、楽曲の中から探して聴く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何回も出てきた。</li> <li>・ラッパの音とよびかけっこしているみたい。</li> </ul> <p>○トランペットとかっこのかけ合いに気を付けて聴く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お話しているみたい。</li> <li>・「やっほー」って話しているように聞こえる。</li> <li>・うさぎかな？</li> </ul>	<p>□かっこの鳴き声を聴かせて認識させた後、楽曲の中からも探し、聞こえたら手を挙げさせる。Ⅰ</p> <p>□「なぜよびかけっこだと思ったの？」「誰とよびかけっこしたの？」と問い、トランペットとかっこの問いと答えの形式に気付かせる。Ⅰ</p>	<p>かっこの鳴き声やかけ合いに焦点を当てて、進んで聴こうとしている。</p> <p>△かっこの鳴き声と、他の金管楽器のかけ合いに気付いているつぶやきを、全体で交流する。</p>
<p>かっこは、どんな動物とお話しているのかそうぞうしてきこう</p>		
<p>○トランペットとのかけ合いの部分の聴き、感じたことや想像したことを、音楽の要素と結び付けてながら交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元気な音（音色）がするから、さるだと思う。</li> <li>・高い音だから、小さなりすだと思う。</li> <li>・よびかけっこ（問いと答え）のところは、「おはよう」って言っていると思う。</li> </ul>	<p>□楽曲から聞こえてくる音を動物へと擬人化させながら聴かせていく。Ⅱ</p> <p>□森のシートと複数の動物の絵を渡し、動かしたり会話の内容を考えたりすることで、聴き取ったことを表現（可視化）できるようにする。Ⅱ—（1）</p>	

○ホルンやバストロンボーンとのかけ合いの部分  
を聴き、感じたことや想像したことを、音楽の  
要素と結び付けながら交流する。

- ・だんだんと音が低くなったから、大きな動物に  
なっていったと思う。
- ・動物が増えたから、一緒にやろう。
- ・さっきは「おはよう」だけど、時間が経ったか  
ら、次は「こんにちは」って話したと思う。
- ・最初は、小さな動物が来て、「あそこにかっこう  
がいるよ」って次々に動物を呼びにいったんじ  
ゃないかな？

○終末の部分の聴き、感じたことや想像したこ  
とを、音楽の要素と結び付けながら交流する。

- ・最後はみんなでパーティをしようと思っていたけ  
ど、いなくなっちゃった。
- ・音が小さくなっていったから、だんだん離れて  
いったんだと思う。
- ・最後の鳴き声の高さががいつもと違うからみん  
だなくなっていて、「あれ？」って言ったんだと思  
う。
- ・赤ちゃんが生まれたから静かにしたんじゃない  
かな。最後の鳴き声はかっこうの赤ちゃんだよ。

○児童1人1人が、想像してきたことをシートに  
整理し、作ってきた物語を振り返りながら、1  
曲を通して聴く。

- ・物語がうまくいった！

楽器の音やかかけ合いによって、どん  
なお話になるのか想像できて、音楽  
を楽しんで聴ける。

□児童の表現を全体で取り上げ、「な  
ぜその動物にしたのか」「なぜ動物  
を変えたのか」「なぜそのセリフに  
したのか」等、全体で交流し、イメ  
ージを共有したり、音楽の諸要素の  
どこに関連しているのかについて  
自覚させたりする。Ⅱ—(1)

□擬人化させた各場面を板書に表  
し、全体をストーリーとして俯  
瞰して見られるようにしてお  
く。Ⅱ—(1)

□徐々にストーリー化している児童  
を取り上げ、全体で共有する。

□楽曲の最後はどうなるか問い、想像  
を膨らませてから、聴かせる。

□ペアやグループ、全体で交流してき  
たことを基に、個でシートに表すよ  
うにし、1人1人の思い、聴き取っ  
たことを表現できるようにする。Ⅱ  
—(1)

□楽器の音やかかけ合いなどに気を付  
けながら聴いていくことで、曲で1  
つの物語としてストーリー化でき  
たことを実感させる。

△用意された動物だけで  
なく、数を増やしたり、セ  
リフを話しながら動かして  
いる児童の聴き取ったこ  
とや感じ取ったことを、  
全体で共有し、他の児  
童の想像を広げる。

場面を想像しながら  
楽曲を形づくっている  
要素のかかわり合  
いを聴く。

【鑑～  
観察・発言・記述】

▲「音はどんなふうに変わ  
ったの？」と問い、音色  
の違いに着目させるよ  
う促す。